

透析医療と医療制度の改訂

NPO法人兵庫県腎友会

会長 小泉 邦昭

透析医療の発達のお陰で15年長生きさせて頂き、現在兵庫県腎友会会長を努めて頂いております小泉です。

私たち透析患者は、40数年前から日本の透析医療関係の皆様のご尽力と、腎友会活動のお陰で、現在までは世界でも非常に恵まれた透析生活を送って参りました。しかし透析導入の原疾患が糸球体腎炎から糖尿病性疾患に大きく変化し、毎年約3万人が新規導入をされ、約2万人がお亡くなりになり、差引き毎年約1万人透析患者が増加し、昨年末で26万人を越えているものと考えられます。また患者の高齢化も進んでおり、透析患者の平均年齢も昨年末で65才を越えていると思われま

す。最近の国の医療制度の改定は、私たち障害者、高齢者にとっては非常に厳しいものです。透析医療費については、国内の患者数は増加しているにも拘わらず総額を抑えられ、医療側にとっても厳しい保険点数の切り下げが行われております。

4月から執行された、後期高齢者医療制度（最近では長寿医療制度と云われますが）は、私たち透析患者は65才から選択出来る制度であります。内容が非常に複雑で、腎友会では該当する65才以上の透析患者の方々にご理解頂くために、県全体、各ブロックでも延十数回に亘り、説明会を実施しました。が、十分にはご理解頂けませんでした。最終的には各市・町の担当部門と相談して頂く様に動める以外ありませんでした。一般の方々も長寿医療制度は非常に理解に苦しみ制度と説明不足から、案の定昨今新聞にも大々的に報道されるよう甚に混乱が起っております。現時点では長寿医療制度の同一疾病に対する保険点数は、同じとされておりますが、私たち透析患者が一番心配していることは、将来同じ透析医療でも長寿医療制度の保険点数が下げられる事を恐れております。

また今年透析関連の診療報酬改訂では、透析の「時間区分」が透析医会のご尽力により復活しました。透析患者にとっても長時間透析は延命効果があると主張はして居りましたが、今回の改訂により、患者が自分の意志で透析時間を選択できる事は非常に有り難い事です。改訂前後の透析患者の透析時間の


変化を日々調査する準備に入っております。

透析医療も関係者のご尽力により、日進月歩進歩はしておりますが、透析にまで至った腎不全は、移植以外不治の病である事は、まだまだ後10年以上は続くと考えられます。現在透析を回避できる唯一の医療である腎移植は、日本で臓器移植法が出来て以来10年が経過し、臓器提供の意思表示カードの配布も一億枚を越えたと云われておりますが、脳死による臓器提供は延にして100件に満たないのが現状です。意思表示カードについては、昨兵庫県内41市町のトップに面会を求め、健康保険証の裏面に意思表示欄を設けて頂く様要請をいたしました。結果として10市町程度は健康保険証をカード化し意思表示欄を設けて頂けたようです。腎移植に関しては、生体移植、心停止後移植を合わせ年1000名弱の透析患者が移植を受けております。私たち腎友会としては腎移植希望登録をしている1万人以上の透析患者が一日でも早く移植が受けられる機会が来るように、移植の啓発活動を進め、法律の改定を陣情し、各都道府県の行政サイドにコーディネーターの増員等をお願いしております。

腎友会の活動としては、先ず透析患者のQOL向上を目指して、40年近く活動をして居りますが、お陰様で行政の方々や一般の方々にも「透析」と云う言葉が周知される様になってきております。しかし透析患者の予備軍と云われる糖尿病の方、腎疾患をお持ちの方々には日本の人口の1割以上居られると聞いております。その方々が透析導入に至らない様に、また透析導入前の方々向けのシンポジウムを、腎疾患対策協会と共催で開催させて頂いて居ります。

最後に私たち透析患者は、透析医療と周りの方々によって生かされている事に対して感謝の気持ちを持ち、社会に必要とされる人間になることを心がけ、如何に社会に貢献するかを考えて積極的に生きて行く事が一番大切だと考えております。

以上



Gift of Life

兵庫腎疾患対策協会会報

2008.6
Vol. 16

発行：兵庫腎疾患対策協会
 住所：〒659-0093 芦屋市船戸町4-1-415 (安井眼科内) TEL:0797-31-8288 FAX:0797-22-6144

メタボだけじゃない!

～慢性腎臓病(CKD)も表舞台へ～

慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease, CKD)は、嘗ては回復しない、進行を食い止められない不治の病とされて来た。すなわち、治療的に明らかに限界のあった腎臓学であったが、最近では早期のCKDは寛解も可能であり、場合によっては治療さえ期待できるまでになっている。治療学が進展してくると、その学問は益々更なる展開を示すものであり、CKDも予防やQOLの改善へと目が向けられるようになって来た。このような経緯を経て、今、表舞台上に登場しているのがCKDであり、厚労省は、CKDを2008年度の戦略研究事業として位置付けている。

CKDの概念は、当時、米国で透析予備軍が増加していたことから、米国腎臓財団が2002年に、その抑止に乗りだしたことに始まる。CKDは、糖尿病性腎症や腎硬化症等の腎の原疾患に関わらず、慢性的に腎機能が低下している状態をさす考え方で、透析の予備軍であり、心臓病の危険因子を有する病態である。

わが国での最近の透析患者数は増加する一方であり、新たな国民病として位置づけられる。しかし、透析予備軍とされる

CKDは、国家的規模の重大な問題であるに関わらず、未だ十分に周知されていないのが現状で、尿タンパクが陽性で、腎臓が悪い場合、心筋梗塞や心不全、脳卒中になる危険性が高いと思っている人は少ない。医療人でも、腎機能障害が心疾患に関わってくることを知っているが、日常の診療でそれを積極的に患者さんに指導している場合は少ないであろう。

CKDは病気が進行しないと、ほとんど自覚症状がない。健康診断や人間ドックなどで検査を受けなければ、病気として発見される機会がほとんどなく、気が付かないうちに発症し、人工透析の導入に至る。尿の異常(尿タンパク陽性)や腎障害の早期発見、適正な治療が重要である。本年4月からの特定検診で尿タンパクを指摘された方は腎専門医を訪ねましょう。

今話題のこのCKDについて、坂井瑠実先生が次の項でさらに詳しく述べられているので、是非お読み願いたい。

兵庫腎疾患対策協会 会長
神戸赤十字病院 院長
守 殿 貞 夫

第18回 総会 及び 講演会のご案内

日 時 2008年 6月28日(土)
 会 場 神戸ポートピアホテル 本館地下1階「菊水」
 総 会 PM 4:00～4:30
 講 演 会 PM 4:30～6:00

「脳の健康とライフスタイルーボケない秘訣とは?」

講師 若林 利光 (わかばやしとしみつ) 先生
 神戸大学医学部卒業、脳神経外科、作家
 若林医院院長、兵庫県脳神経外科・神経内科診療所医会 副会長
 日本バンククラブ会員、日本文芸振興会 顧問

懇 親 会 PM 6:00～8:00 本館地下1階「和楽」
 懇親会費 10,000円

兵庫腎疾患対策協会
 <事務局> 〒659-0093 芦屋市船戸町 4-1-415 安井眼科内
 TEL:0797-31-8288 FAX:0797-22-6144
 e-mail : hyojinkyou@v101.vaio.ne.jp

2008～9年度 兵庫腎疾患対策協会 役員・幹事

<p>神戸赤十字病院 院長 会 長 守 殿 貞 夫</p> <p>神戸大学医学部付属病院 手術部・感染制御部部長 幹 事 荒 川 創 一</p> <p>兵庫医科大学 教授 感染症科 講師 島 博 基</p> <p>国際ソロプチミスト神戸東 保健専任 担当 中 村 満 里 子</p> <p>宮本クリニック 院長 兵庫県透析医会 会長 宮 本 孝</p> <p>高砂市民病院 名誉院長 後 藤 武 男</p>	<p>坂井瑠実クリニック 顧問 副 会 長 福 西 孝 信</p> <p>坂井瑠実クリニック 菊 地 耕 三</p> <p>神戸大学大学院医学系研究科 腎臓泌尿器科 分科 助教 竹 田 雅</p> <p>兵庫医科大学 名誉教授 泌尿器科 講師 野 島 道 生</p> <p>兵庫医科大学 名譽理事 森 村 美 佐 子</p> <p>(株)尾崎建設・医療事業財団 市民共栄センター(ハーディー21 シニアケア)代表 藤 岡 晨 宏</p>	<p>安井眼科 院長 安 井 多 津 子</p> <p>NPO法人兵庫県腎友会 会長 小 泉 邦 昭</p> <p>神戸大学大学院医学部 泌尿器科 分科 教授 田 口 隆 子</p> <p>神戸大学大学院医学部 泌尿器科 分科 教授 藤 澤 正 人</p> <p>兵庫医科大学 内科学 腎・透析科 教授 中 西 健</p> <p>兵庫県臓器移植 コーディネーター 藤 原 亮 子</p> <p>長久天満診療所 院長 長 久 謙 三</p> <p>国際ソロプチミスト神戸東 会長 水 垣 文 子 子</p>
会 計 監 査		

ストップ ザ 透析!

～あなたも透析予備軍のCKDかも～

医療法人社団 坂井瑠実クリニック

理事長 坂井 瑠実

CKD (Chronic Kidney Disease慢性腎臓病) ってご存知ですか?

CKDはコモンディーズ

CKDとは慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease)の頭文字をとったもので、尿に蛋白がでる慢性腎炎だけでなく、糖尿病や動脈硬化、高血圧、メタボリック症候群、加齢等原因は何であれ腎臓の働きが正常の60%以下になった状態、正確には腎機能を表すGFR(糸球体ろ過率)が60ml/min/1.72m²以下になり、この腎機能低下が3ヶ月以上続く状態を言います。日本ではこの60%以下に腎機能が低下した人々が実に2000万人を超え、腎機能が半分(GFR50)以下の人が480万人と言われているほどポピュラーな病気“コモンディーズ”なのです。しかし腎臓病は命にかかわる直前まで、即ち透析が必要といわれるす前までほとんど自覚症状が出ないのです。尿に蛋白が出ていないから安心というわけにはいきません。ひょっとしてあなたもCKDの心配があるかもしれません。

日本は世界一の透析大国

透析医学会の統計調査によれば2006年度末の全国の透析患者数は26万人を超え、毎年約1万人増加しています。国民の500人に1人は透析を受けていて、日本は人口当たりの透析患者数は世界一となっています。移植が当たり前に行われる諸外国と比べて、全くといってよほど移植が進まないわが国においては、2010年には透析患者数は30万人を突破し、よほどの対策を講じないかぎり年々増加の一途をたどるといわれています。医療経済的には国民の総医療費の4%、1兆円を超える費用を透析に使っています。これ以上透析患者が増えることは患者のQOLからも医療経済の上からも大きな問題なのです。

まず検尿と採血を!

CKDかどうかを知るにはまず検尿と採血をしてください。内科を標榜しているところならどこの病院、診療所でも診断可能ですし、最近では人間ドックや健康診断でも評価してくれます。検尿で蛋白、糖、微量アルブミン、潜血をチェックし、採血で血清クレアチニン値を測定します。これを基に電卓もしくは図表から腎機能を、推定GFR(eGFR)という形でたちどころに算出して、CKDを診断します。そしてステージ1からステージ5の5段階の重症度分類をして治療にかかります。もし血清クレアチニンが男性で1.1mg/dl以上、女性で0.8mg/dl以上であれば要注意です。CKDと診断されたら、かかりつけ医と腎臓専門医の連携のもとに治療を開始してください。(腎臓専門医は、腎臓学会のホームページの末尾に記載してあります)

CKDは治療可能な疾患です!

腎臓専門医である私も慢性腎不全は進行性で、透析は避けられないものと思込んで治療をしてきました。しかし、今ある治療法を十分活用すれば、CKDを臨床的に寛解に持ち込み、透析へ進行することを抑制できることが判明しました。早期であればあるほど治療効果が著しく、クレアチニンが2.0mg/dlまでの間に寛解に持ちこむことがポイントです。日本腎臓学会から「CKD診療ガイド」が出ています。単純明快に治療方針が書かれています。

CKDの治療の実際

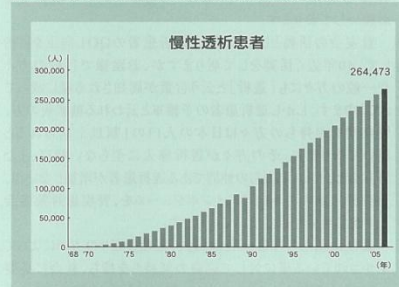
CKDの治療に当たっては、まず生活習慣の改善(禁煙、減塩、肥満の改善)を行って下さい。血圧の管理目標は130/80mmHg未満、糖尿病性腎症ならHbA1cを6.5%未満に管理し、LDLコレステロールを120mg/dl以下にコントロールします。腰や膝、あちこち痛くてもなるべく非ステロイド系の消炎鎮痛剤は使わないほうが懸命です。脱水は最大の敵です。

CKDはCVD(心血管障害)の危険因子

腎機能が悪ければ悪ほど心血管疾患(心筋梗塞、心不全や脳卒中)の発症のリスクが高くなり死亡率も高くなります。CKDはCVDを発症し、CVDはCKDを悪化させてしまうので、双方の管理が必要ということになります。CKDだからといって腎臓の治療だけでいばよというわけにはいかないのです。ちなみに透析患者の死因のトップが心不全、脳血管障害等のCVDなのです。

わが国における慢性透析患者総数の推移

日本透析医学会 わが国の慢性透析療法の実況(2006年12月31日現在)より引用、改変



今、日本においてのみならず世界においても透析を必要とする方々が多くなり、CKD対策が急がれています。透析患者をこれ以上増やさない運動、ストップ ザ 透析を合言葉に、“CKDはポピュラーな疾患”“CKDは危険”“CKDは治療できる”を肝に銘じて日々CKDの予防、進展防止に力を注ぎたいと思っています。毎年3月の第2木曜日は「世界腎臓デー」、腎臓に自信のある人もCKDの検診を受けましょう!透析導入が減少することを願っています。

年別透析導入患者数の推移 (主要原疾患)

日本透析医学会 わが国の慢性透析療法の実況(2006年12月31日現在)より引用、改変



活動報告

2007年度 活動報告

(2007年4月1日～2008年3月31日)

- ① 会報「Gift of Life」Vol.15の発行 (6月)
- ② 兵庫腎臓病シンポジウム07 (7月1日)
NPO法人 兵庫県腎友会と共催
[講演Ⅰ] 「粘り強い糖尿病性の治療 ～もつと蛋白尿は消失します～」
講師: 仙台原生病院 副院長 赤井祐輝先生
[講演Ⅱ] 「糖尿病性腎症から透析導入」
講師: 兵庫医科大学病院腎臓科教授 中西 健先生
[パネル] 「糖尿病性腎症とどう付き合う」
座長: 戸屋 敏 坂井瑠実クリニック 院長 坂井瑠実先生
- ③ 神戸新聞一面記事体広告掲載 (10月29日)
- ④ 兵庫県臓器提供懇話会支援
- ⑤ 兵庫県臓器移植推進協議会支援

2008年度 活動計画

(2008年4月1日～2009年3月31日)

- ① 会報「Gift of Life」Vol.16の発行 (6月)
- ② DVDの製作
- ③ 第18回総会および講演会開催 (6月28日)
- ④ 神戸新聞一面記事体広告掲載 (10月)
- ⑤ 兵庫県臓器提供懇話会支援
- ⑥ 兵庫県臓器移植協議会支援
- ⑦ 兵庫腎臓病シンポジウム'08
NPO法人 兵庫県腎友会と共催
- ⑧ その他

